

12. 共同獣医学研究科

(1) 共同獣医学研究科の教育目的と特徴	12-2
(2) 「教育の水準」の分析	12-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	12-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	12-10
【参考】データ分析集 指標一覧	12-11

(1) 共同獣医学研究科の教育目的と特徴

1. 教育目的

本研究科は、獣医学及び動物科学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた先導的獣医学教育者及び研究者、幅広い学際的な素養とグローバルな視点を基盤に、独創的な研究力とコミュニケーション力を発揮して、社会的要請に応える地域のリーダーとなりうる獣医学教育者及び研究者及び家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、One Health スペシャリストまたは難病治療・創薬スペシャリストとして獣医学及び動物科学における諸問題に対応または解決できる獣医学教育者及び研究者を養成する。

2. 特徴

岐阜大学と鳥取大学は共同獣医学科として共に学部教育を行っているため、両大学が大学院教育も共同で行うことで、学部から大学院への一貫教育課程の編成が可能となり、これまで以上に高度な専門性を有する人材の輩出が期待されるとともに、進学を希望する学生の不都合や不利益を解消し、より効果的かつ効率的な大学院での教育・研究が実現可能となった。したがって、学部教育でのジェネラリスト教育を基盤に社会ニーズに対応するスペシャリスト養成プログラムを実施しており、本プログラムでは、学部教育で培った獣医師としての実践的行動力やリスクマネジメント能力を更に発展・特化させ、各専門分野のリーダーに求められる実践的行動力やリスクマネジメント能力を涵養する。また、学部教育で培った問題解決能力や論理的思考力、海外とのコミュニケーション能力を基盤として、研究者に求められる問題発見能力、独創性・創造力、海外への情報発信能力を涵養するための専門教育を行う。具体的には、鳥取大学とともに1～2年次には各専門分野の研究者及び各スペシャリスト養成の基盤となる「研究科共通科目」及び「基盤的教育科目」を開講する。2～3年次には「スペシャリスト養成科目」を開講し、学生は2年次に専門分野にかかわらず希望するスペシャリスト養成プログラムを選択、各プログラムに沿った科目を中心に履修する。また、2～3年次には各専門分野での博士論文作成に関連する科目として「研究推進科目」を開講し、さらに実践的能力を育成するため2～4年次には「アドバンスト教育科目」を開講し、3分野（「家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト」、「One Health スペシャリスト」及び「難病治療・創薬スペシャリスト」）におけるスペシャリスト育成が本研究科の特徴となっている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4212-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料（再掲）4212-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4212-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 なし）
理由：共同獣医学研究科は2019年度より開始した組織であるため、自己点検・評価は2020年7月に実施予定。
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4212-i3-2（第5、6条））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本研究科の特徴である3分野（「家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト」、「One Health スペシャリスト」及び「難病治療・創薬スペシャリスト」）におけるスペシャリスト養成のため、研究者養成に関わる基盤的教育に加えてスペシャリスト

岐阜大学共同獣医学研究科 教育活動の状況

養成に特化したカリキュラムを開講した。スペシャリスト養成科目については、学内に設置されている岐阜県中央家畜保健衛生所ならびに応用生物科学部附属施設である家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFAH）、生命の鎖統合研究センター（G-CHAIN）、野生動物管理学研究センター、附属動物病院、さらには本学連合創薬医療情報研究科との連携により開講する。スペシャリスト養成科目の詳細は下記の通りである。

a. スペシャリスト養成コア科目：3つのスペシャリストを養成するための核となる必須の高度専門的知識を重点的に身に付けさせるため、以下の科目（計3単位）を開講する。

- 1) 「家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅰ・Ⅱ」、「One Health 特別講義Ⅰ・Ⅱ」、「難病治療・創薬特別講義Ⅰ・Ⅱ」（2・3年次、選択必修、2科目、各1単位）：自大学及び相手大学の教員が開講するスペシャリスト養成プログラムのコアとなる講義であり、選択したプログラムに沿った専門知識を修得する。
- 2) 「家畜衛生・公衆衛生特別演習」、「One Health 特別演習」、「難病治療・創薬特別演習」（2・3年次、選択必修、1単位）：自大学の教員が開講する科目であり、高度の専門的研究技術を修得する。

b. 「スペシャリスト特別講義」（2・3年次、選択必修、4科目、各1単位）：3つのスペシャリストに要求される高度専門知識を修得させるため、各スペシャリストに対応した3つの科目群（「家畜衛生・公衆衛生科目群」、「One Health 科目群」、「難病治療・創薬科目群」）を設定し、それぞれのスペシャリストに必要なとされる専門知識を修得させる科目を開講する。学生は、選択したスペシャリスト養成プログラムに沿った科目群から計4単位を履修する。また、関連分野に関する理解力と判断力を醸成するため、学生が希望する場合は選択したプログラム（上記4単位）以外の科目も受講可能とする。講義は自大学及び相手大学の教員が開講する。

c. 「スペシャリスト特別演習」（2・3年次、選択必修、1単位）：3つのスペシャリストに要求される高度専門知識と課題解決能力を修得させるため、各スペシャリストに対応した3つの科目群（「家畜衛生・公衆衛生科目群」、「One Health 科目群」、「難病治療・創薬科目群」）を設定し、それぞれのスペシャリストに必要なとされる専門知識及び技術を修得させる科目を開講する。学生は選択したスペシャリスト養成プログラムに沿った科目群から1単位を履修する。演習は相手大学へ学生が移動し、相手大学の教員が開講する科目を受講する。[3.1]

＜必須記載項目 4 授業形態、学習指導法＞

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4212-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 4212-i4-2～4212-i4-3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4212-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 なし)
理由：インターンシップ実施状況等調査票に実績がなかったため。
- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 授業は、1) 学生が自大学の教員による授業を受講する対面授業、2) 遠隔講義システムを利用した遠隔授業、3) 学生が他大学に移動して受講する、あるいは国内の連携機関、国外の研究機関、ジョイントワークショップや国内外の学会での活動を伴う学生移動型授業のいずれかの方法によって実施される。

授業形態が講義である科目の授業は対面授業で実施されるとともに、他大学の学生は遠隔講義システムを利用してリアルタイムで同じ授業を受講する。授業形態が演習である科目のうち「プログレスセミナーⅡ」は、遠隔授業により実施し地理的に離れた両大学に在籍する学生と教員とのリアルタイムのコミュニケーションによる指導を行う。授業形態が演習である科目のうち「学際領域特別演習」及び科目区分「スペシャリスト特別演習」に区分される科目は学生移動型授業である。

一方、本専攻には学部からの進学者のみならず、社会人及び留学生などが入学する。そこで、e-Learning コンテンツの提供やビデオ・オン・デマンドを利用した教育環境(e-Learning、インターネット環境の利用を含む)を充実させ、通常の授業時間帯に通学が困難な社会人等にも、日常的に通学する大学院学生と同等の受講と研究指導、研究室におけるセミナー参加が可能な環境を提供し、教育の実質化と教育効果の向上を図った。[4.3]

- 国際的分野で活躍する研究者の養成と留学生に対する効果的教育・研究環境を提供するため、必要に応じて英語による講義と研究指導を実施する。特に留学生

岐阜大学共同獣医学研究科 教育活動の状況

に対しては英語による授業を充実させ、メンター制度を導入した。

2019 年度には、特徴的な授業として「学際領域特別演習」及び「アカデミック・イングリッシュ」を開講しており、学生による授業評価では両科目とも参加者全員から「よかった（評価ポイント：4 点）」、あるいは「大変よかった（評価ポイント：5 点）」との評価を受けている（図 1-4-1 及び 1-4-2）。「学際領域特別演習」では、岐阜大学と鳥取大学の両教員・学生が参加し、学生の研究計画についてディスカッションするとともに研究倫理に関する講義、及び連合獣医学研究科構成校から講師を招いて先端研究に関する講義を開講している。また、「アカデミック・イングリッシュ」では、ネイティブスピーカーの講師を招いて英語プレゼンテーションやコミュニケーションに関するスキルアップに関する講義を開講している。「アカデミック・イングリッシュ」における成績評価では、英語プレゼンテーションにおけるスキルごとの評価を示し、どのスキルの能力が不足しているか把握できるようにしている。[4.2]

図 1-4-1 学生による授業評価ポイントの推移（学際領域特別演習）

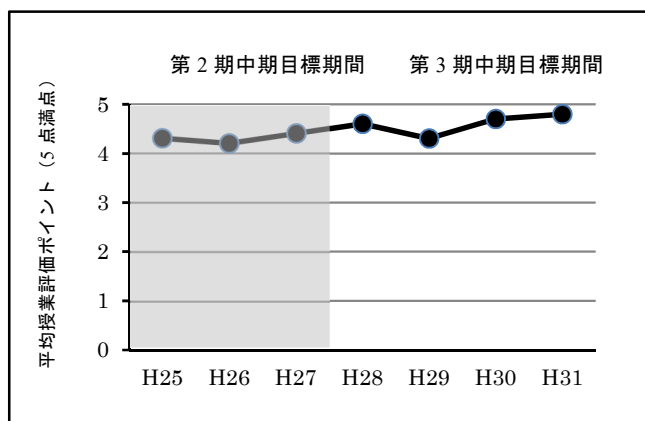
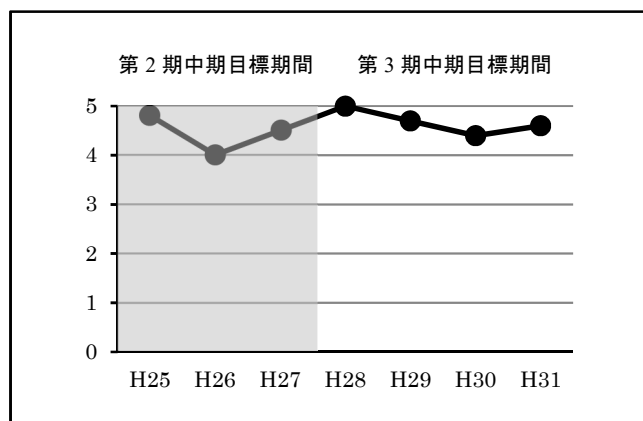


図 1-4-2 学生による授業評価ポイントの推移（アカデミック・イングリッシュ）



※H25～H30 のポイントは連合獣医学研究科にて開講した同様の授業におけるポイントを示す。

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4212-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4212-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4212-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 4212-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生の指導については、主指導教員の他に副指導教員2名が担当する複数指導体制により研究指導、学修指導及び支援を行っている。副指導教員のうち1名は本学より、もう1名は鳥取大学より選出している。これら3名による研究指導については、研究計画書において、それぞれどのような指導分担をするか明確にしている。また、2年次及び3年次には主指導教員及び副指導教員による「プログレスセミナー」を開講しており、研究の進捗状況の確認や学位論文の作成指導を実施しており、きめ細やかな教育・研究指導体制を取っている（別添資料（再掲）4212-i3-2）。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4212-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4212-i6-2【非公表】）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4212-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 全教員を対象にしたシラバス・成績評価に関する自己点検評価を行い、各科目の教育目標、教育内容及び評価方法について、より詳細にシラバスに記載するようにした。特に「学際領域特別演習」では、学生による研究計画発表に関わる評価基準について明確化した。連合獣医学研究科の第2期において成績評価の基準を含めたシラバスは学生のみに公開していたが、共同獣医学研究科においてはWebサイトにすべて一般公開し、100%の公開率となっている。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料（再掲）4212-i3-2（第16条））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4212-i7-1（第46条）～4212-i7-2（第19条））

岐阜大学共同獣医学研究科 教育活動の状況

- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 4212-i7-3）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料（再掲）4212-i7-1（第 46 条）～（再掲）4212-i7-2（第 19 条））
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 4212-i7-4）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 博士論文の水準及び学位審査委員の体制、審査の方法及び項目について見直しを行い、具体的な評価基準を定めた（別添資料 4212-i7-5）。また、岐阜大学と鳥取大学双方における学位論文審査の体制や審査方法に関して申合せを作成した（別添資料 4212-i7-6）。学位審査会については、共同専攻を構成する岐阜及び鳥取大学だけでなく、これまで連合獣医学研究を構成していた他大学及び連携機関等からの副査委員の選出を可能とし、より専門的かつ厳正な審査を遂行する体制を整えている。[7. 2]

＜必須記載項目 8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料（再掲）4212-i1-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4212-i8-1）
- ・ 指標番号 1 ～ 3、6 ～ 7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 外国語（英語）の入試については、大学院教育及び研究の遂行に必要な語学力を客観的に評価するため TOEFL-ITP を導入している。これまでの全受験生の合格平均点は 488.6 点であり、これは CEFR（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）の B1 レベル（自立した言語使用者）以上に相当し、大学院教育に必要な語学能力は担保されていると考えられる。[8. 1]

＜選択記載項目 A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料（再掲）4212-i4-4）

- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 共同獣医学研究科では、海外における学会、シンポジウムや国内で開催される国際学会、セミナー等に積極的に学生を参加させ、国際感覚及びコミュニケーション能力を涵養する目的で、1) 海外派遣プログラム（国際学会、海外の研究機関等における短期集中研修等に派遣する）、2) 若手研究者育成プログラム（シンポジウム等の企画、他の研究科が主催するシンポジウム（北海道大学博士課程リーディングプログラム：SaSSOH）などへの参加）、3) ジョイントワークショッププログラム（東アジアの国々の参加によるワークショップの開催）、のプログラム継続を予定している。[A.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4212-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料（再掲） 4212-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 獣医学課程卒業者の獣医師国家試験合格率（農林水産省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。